



近畿財務局 理財部 主計第2課 主計実地監査官 稲森 浩一
平成14年採用（国家Ⅱ種）

◆現在の仕事内容

私が所属する主計第2課では、主に3つの財政に関わる業務（①予算執行調査、②実施計画承認に係る調査、③繰越承認に係る事務）を行っています。私は、主に①と②の業務を担当し、予算に無駄がないかをチェックしています。

財務省では財政資金の効率的・効果的な活用のため、予算のP（プラン（予算））D（ドゥ（執行））C（チェック（評価・検証））A（アクション（予算への反映））サイクルの取組みを行っており、予算執行調査もその取組みの一環で行われています。

各省庁が必要な事業の予算を計上し、総額約98兆円という国の予算が出来上がっていますが、事業が継続されていくにつれて、社会の変化と共に必要性が形骸化したり、有効な事業でなくなったり、効率性を欠く事業が出てくることもあります。そういった事業の在り方を見直すために、私たちは予算執行調査を行って、現在の予算の執行状況等を書面調査や実地調査を通じて、情報収集・分析し、次年度の予算編成に反映させています。



◆現在の仕事の魅力、やりがい

先程ご紹介しました予算執行のチェックを行う業務（予算執行調査など）は、調査・分析結果を基に次年度の予算編成で反映された内容がHPや新聞等で公表されます。国の財政状況が厳しくても新たに必要とされる新規事業は出てきます。私たちが行う既存事業のチェック業務は、新規事業への予算の振り替えにも活用されており、効率的な予算編成に寄与しているといえます。財務局に在籍しながら、約98兆円もの予算編成に寄与する醍醐味を味わうことが出来るのも魅力の一つです。

◆近畿財務局を志望した理由

私が採用された当時は、官庁訪問といって、各省庁の人事担当者を訪問して、採用内定を受けるシステムでした。官庁訪問をする中で、人の魅力が一番感じたのが近畿財務局でした。公務員はまだまだ終身雇用という概念が存在します。では、その40数年の役所生活をどこで送るかと考えた時、やりたい仕事はもちろんですが、職場環境、延いてはそこで働く人たちが重要なのではないかと考えていました。

官庁訪問を通して、いい先輩、いい上司、風通しのよい職場が近畿財務局にはあると実感したことが志望の動機となりました。

◆今までの業務経験について（印象に残っていること、苦労話など）

これまでの業務で印象に残っていることは、財務局に7年間勤務した後、財務本省へ出向し、約7年間、社会保障の予算編成に携わったことです。予算編成では、9月から12月末までに担当省庁の予算を査定していきます。これまでに培った知識・経験を総動員して、5年先、10年先といった将来も見据え、その年の予算をどのような姿にするかを考えます。一切の妥協を許さないという使命感を持ち、時間の許す限り論理的・建設的な対話を通じ、最終的にどうやって自己の主張に納得してもらうか、人間としての総合力が問われているような状況でした。

そういった状況に置かれていたことで、これまでの自分の経験値の乏しさに気付かされたり、知らない知識や論理的な考え方に対して高揚感を覚える経験をすることが出来ました。

仕事を通じて様々な経験値を得て、それを次の仕事に活かしていく、このサイクルの大切さを学び得ました。

◆財務局を志望する方へのメッセージ

様々な経験を通じて、自分を成長させていきたいと思う方は、是非近畿財務局の門を叩いてみて下さい。

財務局では、財政、金融、国有財産管理など様々な専門分野の業務を担っているため、異動毎に新しい知識や刺激を受けられるフレキシブルな環境があります。また、自分の頭で考え、物事に情熱を持って取り組み、他の人の意見の良い点を素直に吸収していく多くの仲間が在籍するのも財務局の魅力です。そういう職場環境に身を置くと、あなたもきっと成長できるはずです。

官庁公開フェスティバルや職場訪問等を通して、財務局の雰囲気を経験してみてくださいね。

